

3.3 第5回 九州産業大学商学部 グループ研究発表会 審査講評

第1分科会

JALリゾートシーホークホテル福岡 副総支配人 見田 秀男

1. 分科会全体に対する講評

今回初めて九州産業大学商学部研究発表会の審査委員として参加させていただきました。ホテルマンとして多忙な日々を追われる小生にとって、学生諸君との接点は採用活動における面接程度であり、こうして大学構内での今回の体験は新鮮な感動と大いなる刺激を受けました。審査にあたっては先ず、若者らしくユニークな視点を持ってテーマを取上げているか。まじめな取り組みであったか。レジュメの作り方、そして発表にあたっては分かり易く、且つ説得力があったか。その為のパワーポイントの使い方はどうであったか等を中心に審査をいたしました。全般にパワーポイントを駆使した発表方法は非常に分かり易く、若者らしい発想が感じられ興味を引く内容ばかりであった。これらのテクニックは今後社会人となつていろいろな場面できっと役に立つものと思います。全体として少し気になることはインターネット等を利用したデータの参照、分析はある程度理解できますが、もう少し若者らしくフィールドワークの成果を盛り込んでいたら違った結論に至っていたのではないかと思われるグループもありました。このような研究では直接現地に足を運んだり、当事者に直接インタビューしたりして実際に見る、聞く、感じた事を表現することも必要ではないでしょうか。

2. 各グループに対する講評

①どうなの？KSU？～財務からみた九州産業大学～

審査員の私にとっては些か驚きのテーマであった。自らの大学を評価することはややもすれば学生の立場から人気ランキング的な内容に陥りやすいところを商学部らしく客観的に財政面から切り込んだところを審査員は評価した。内容としては総花的になっていた。サービスを受ける立場として、総資産におけ各大学での学生が享受できる資産投資がどのようであったかを焦点として絞り込んでほしかった。レジュメ、発表に奇を衒ったところがなく、結論についても明確に示しておりこの点においても審査員は評価をしました。

②新北九州空港の将来～利用客獲得のためのマーケティング戦略～

奇しくも審査員の前任地は関西空港島内の空港会社所有のホテルであった。非常に興味をそそるテーマであり、楽しみにしていたが些か拍子抜けの感があった。昨今の日本では

様様の問題から新規開港の空港は海上空港が多い。と言うことは同じような問題を抱えているのではないか。利用客獲得のひとつとしてそのアクセス問題をも少し取り上げて欲しかった。海外事例を含め、国内では羽田空港や福岡空港の活況は都心からのアクセスの良さに尽きるには。又、メンバーが実際に現地に何度ぐらい足を運んだのだろうと推測したが現地調査からの問題点あまり見えてこない。タイトルにマーケティング戦略とあるのでここでは若者らしく利用客獲得の為の奇抜なアイデア等が提案されてもよかったのではないかと思います。

③We Love Hawaii～ハワイから学ぶ観光産業とは～

ハワイ研修をきっかけに今尚人気の高いハワイ観光を取上げた視点は興味を引くものであった。プレゼンも演出あり観光ガイド内容であり発表そのものを楽しく拝聴したが、もう少し問題点の絞込みをした方が結論も導き出し易かったのではないかと思います。女性的視点での分析は評価するがその結果が明確に示されていなかった。又、これからのハワイ観光の有り様を提案してもよかったのではないか。

④New Tourism～着地型観光のあり方～

観光の多様化がここ数年叫ばれています。審査員も広域で言う観光業の一翼を担っていますが、着地型観光の概念を具体的成功事例を持って説明しており判り易かった。着地型観光の成功例や利点が強調されており結論としてはいい方向であると結んでいます。しかし、問題点はないのでしょうか。一時的なブームとその反動の結果。又、これら対象となった地方都市における財政面での問題はなかったのでしょうか。このあたりも取上げて欲しかった。

⑤外資系高級ホテルの東京進出

審査員は同業者と非常に興味を抱いた問題でありました。昨今のホテル業界の状況は東京のみならず地方都市においても外資系ホテルの進出は目覚ましいものがあります。これを東京に絞り込んで取上げその背景を探った。このことは只単に外資系ホテルの日本進出が市場拡大だけの問題ではなく、ホテル業界における資本と運営の分離、団塊世代の一斉退職など多面的に分析と結論の絞込みは十分説得力があった。しかし、もうひとつ踏み込んでもらいたかったのはその将来をメンバーがどのように思ったのかを聞きたかった。

メの段階からしっかり出来上がっていただけにもったいなく感じます。

また、有価証券の内容を財務課に問い合わせたら教えてもらえなかったということでしたが、「アポなしで行って断られてしまった」だけで諦めてしまったというのでは、あと一步踏み込みが足りないかなという印象を与えてしまうと思います。もし本当にそこに問題があると考えるのであれば、レジュメの提出後の期間にもう一度アプローチを試みても面白かったかも知れません。

②新北九州空港の将来～利用客獲得のためのマーケティング戦略～

近隣に新たに開港した新北九州空港という、時宜に適ったテーマを取り上げた研究発表でした。空港の収入源として着陸料収入と商業施設に着目して分析し、羽田空港の制約から国内線の増便による着陸料収入増は難しく、国際線の増便と商業施設の充実を求めるべきではないかという一定の結論を導き出している点は評価できると思います。

しかし、海外の成功例を参考に何かを考えるというときに、フロアからの指摘にもあったように、フランクフルト空港を引き合いに出したのは無理があるように感じました。「規模は違うにしろ」という認識はあったようですが、規模だけでなく、空港としての位置づけが大幅に異なりますし、時代背景、当該空港を取り巻く状況はかなり異なるのではないかと思います。「1947年開港当初、新北九州空港と同様に未利用の土地がかなりあった」というだけで話をつなげてしまうのは強引で、「商業施設の充実」を論拠付けるには弱いと思います。見田先生からの指摘にもあったように新北九州空港へもう少し足を運んでみるなり、身近な分析対象であることを生かして内容を深めることができるとよかったですのではないかと思います。

③We Love Hawaii

1週間のハワイ滞在時に撮影した写真などをふんだんに使い、とてもきれいなパワーポイントの資料を作っていました。話し方など発表の練習もしっかりしているという印象を受けました。1週間とは言え、現地でしばらく過ごしているというのは、発表にリアリティを与える上で大きかったと思います。

しかし「研究発表」としては、やや問題意識や内容が希薄になってしまったきらいがあるように感じました。例えば皆さんが見つめてくれた問題点の中で特に重要なものを掘り下げてみるなり、何か「テーマ」を見つけて「研究」に取り組んでくれると良かったのではないかなと思います。

④New Tourism～着地型観光のあり方～

レジュメもきれいなレイアウトで作成されていましたし、発表用のパワーポイントもセンスの高さを感じさせるものになっていたと思います。しかし、まとめ・結論に当たる部分があり明確に出せていない印象を受けました。

「着地型観光」という新しい概念に着目し、「発地型観光」という対概念との比較で検討している点や、「現在の取り組み」について「ハード面」と「ソフト面」と側面に分けて分析している点には好感を持ってました。ただ、全体的にもう一步踏み込んでもらえると良かったのではないかと感じます。

このグループの発表に対しては、フロアからの質問が他のグループと比べてやや多めに出ていました。多くの方に関心を持たれる面白いテーマを設定されたということを示しているかと思います。今後さらに研究を深めていただければと思います。

⑤外資系ホテルの東京進出

この分科会の中で唯一の2年生グループでしたが、とてもよく頑張っていたと思います。レジュメを読ませてもらった段階では、外資系高級ホテルが「外国人ビジネスマンの増加による需要を見込んで東京に進出してきたのではないだろうか？」という仮説を挙げて終わってしまっていましたので、研究がまとまりきっていないのかなという印象を受けました。ただ、当日の発表においては、レジュメにも「検証対象」として列挙してあった様々な角度からの分析を重ね、何とか納得できるところまでは持って行けていたと思います（質疑応答の中で多少その結論からずれるのではないかと感じる回答もありましたが）。

発表の仕方についても、1人だけが話をするスタイルには賛否両論あるかもしれませんが、質問への対応も含めて非常に堂々と対応していたと感じます。パワーポイントについても、発表に合わせてよく作り込まれていたと思います。

第2分科会

前ホテルオークラ福岡 社長 金子 順一

1. 分科会全体に対する評価

昨年の第4回に引き続き、今回も、グループ研究発表会の審査委員を拝命する光栄に浴し、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

全般的に見て、まず気づいたことは、昨年と比べて、発表の際の原稿の棒読みがほとんどなくなり、発表技術に進歩が見られたことである。